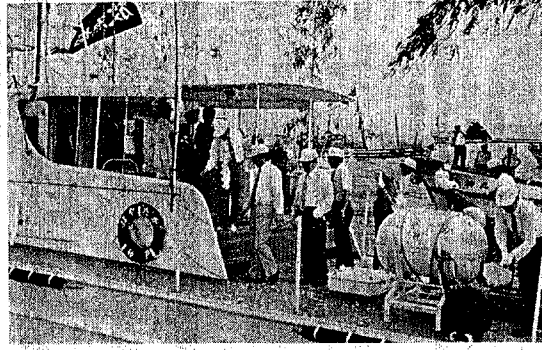


合成洗剤を追放しよう!!
生命のふるさと海を守るために

拓水

9月号 No.336 一部 10円
 (会員の購読料は指導事業経費より支払われています)
 発行所 兵庫県漁業協同組合連合会
 兵庫県水産改良普及協会
 神戸市兵庫区中之島 2-2-1
 TEL 681-6954~7
 発行人 兵庫県漁業協同組合連合会



豊漁を願って放流する漁業関係者

この日は晴天に恵まれ、神戸市漁協周辺に高く上げられたアドバロンと大漁旗が揺りく、県下各地から約二百人の漁業関係者が参列し、海神社の近藤公博宮司らにより神事が行われた。来賓には兵庫県副知事貝原俊民氏、水産庁瀬戸内海漁業調整事務所長黒木俊一氏ら関係団体から多数出席、玉串を奉奠の後海上行を行った。塩屋沖築磯での海上行事では、出席者全員が

第10回豊漁祈願祭(主催兵庫県漁業協同組合連合会)は、八月三日、神戸市豊漁漁港において行われた。この豊漁祈願祭は、兵庫県漁民の豊漁と、漁業操業安全を願い、

第10回豊漁祈願祭 タイ、ヒラメなど10万尾を放流

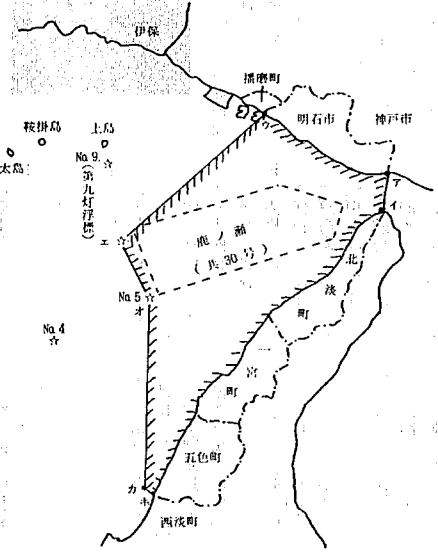


12万5千尾

- ヒラメ 30万5千尾
- マコガレイ 15万6千尾
- クルマエビ 2592万1千尾
- ガザミ 51万3千尾
- クロアワビ

豊漁と操業安全を祈願する婦人部代表

まだこ採捕禁止海域図
 昭和59年8月20日から昭和59年10月31日まで

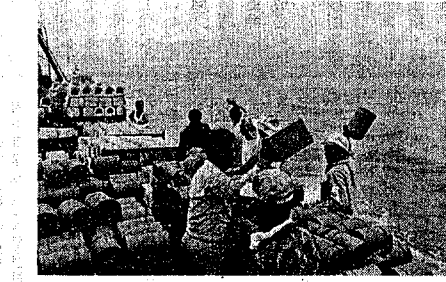


本年当初の異常寒波により、播磨路における重要水産動物であるマダコのへい死が甚だしく、これに依存する

マダコの放流事業始まる 資源回復はかる

兵庫県 漁業補助事業

漁業に重大な打撃を与えるため、県漁連が事業主体となり、マダコ放流事業が実施される。事業量は、産卵用マダコ10トン、産卵用タコツボ6000個、総事業費は一千八〇万円内自己負担金六〇〇万円町負担金六〇〇万円となっている。マダコはさる昭和三十八年の寒波でも全滅寸前になり、今回と同様に放流し資源を回復した実績があり大きな期待が寄せられているところである。またこれには資源保護および放流事業を効果的なものとす



第25回兵庫県漁港大会を開催



第25回兵庫県漁港大会は八月二十三日(八月二十四日熱海市)に於いて県下百五十名が参加のもと盛大に開催された。漁港は、漁業の生産と流通の基盤であり、拠点であるとともに地区住民の生活と環境の改善向上並びに地域開発につながる基礎的施設である見地から、その整備は緊急かつ重要であり、政府ならびに県当局に対し積極的かつ強力な施策の実行を要望してゆくことを大会宣言している。尚現在兵庫県漁港協会会員は、6市14町31漁業協同組合の51会員と4漁業協同組合の

兵庫のりの特長取戻そう、 ノリ養殖技術研修会

県下ノリ生産者にとって、唯一の研修の場である昭和五十九年度兵庫ノリ養殖技術研修会が、去る八月三十一日(九月一日)の二日神戸市須磨(寿楼)でのり生産者ほか関係者百三十余名の参加を得て盛大に開催された。

近畿地方3か月予報 (9・10・11)

大阪管区気象台発表
 残暑は9月前半までの見込です。
 10・11月はさわやかな秋晴れの日が多いでしょう。
 近畿地方に影響する台風は1~2個の見込です。
 9月=前半は暑い晴天の日が多いでしょう。後半は秋雨前線の影響で曇や雨の日がある見込です。
 10月=移動性高気圧におおわれ、秋晴れの日が多いでしょう。下旬には一時気温の下がる日がある見込です。
 11月=前半天気は周期的に変わり、比較的晴れの日が多いでしょう。後半には、寒気が南下し、冷え込む日がある見込です。
 (気温および降水量の予報)

要素	9月	10月	11月
気温	やや高い	やや高い	平和並
降水量	やや少ない	やや少ない	やや少ない

講師として、兵庫県漁連青専務理事並びに兵庫県農林水産部漁業課長から挨拶があり引続き講演が行なわれた。講演テーマ及び講師は、後記の通りであるが、今回の研修会の特長は「経営」をテーマに取り上げたこと。これは昨今のノリ養殖経営の厳しさを如実に物語っているもので参加者の講演を聞き入る目は真剣そのものであった。今回の研修会で各講師から助言され、今後の課題点と指摘された内容を充分かみしめて、厳しい流通環境の中で、来る五十九年度漁期が好結果であるよう期待したい。

講師 白羽 悟氏 山本 辰義氏
 小浅商事務 一、のり養殖の問題点
 一、「流通動向と兵庫のりの課題」
 一、「漁場生産能力と製品向上」 太田扶桑男氏
 一、「今年の養殖対策」
 一、「今後の養殖対策」 兵庫県水産試験場
 一、「鬼頭 釣氏 山内 幸児氏
 一、「今後ののり漁家」 兵庫県漁連
 一、「総合討論」 加藤 孝氏
 漁協経営センター

大冷水塊を究明

科学技術庁の発表

科学技術庁では、黒潮の実態を把握し、黒潮域の開発利用の可能性を評価するため実施した調査、研究結果をこのほど発表した。これはすでに一般新聞、テレビ等で報告されているが、漁業と黒潮の関係は特に大きいものがあるため、その概要を掲載いたします。

一、研究の概要

黒潮海域は大蛇行の例にみられるように長期に変動しており、漁業、気象、海運等社会経済にあたる影響は大であるため、昭和52年度から、昭和61年度までの10か年にわたる、水産庁、海上保安庁、気象庁、地方公共団体、海洋科学技術センター及び東海大学が連携し、①黒潮変動機構の解明、②黒潮の生物生産基礎機構の把握、③黒潮エネルギーの把握、④黒潮浄化能力の把握を研究目標としている。

二、研究の成果の概要

黒潮変動の中でも最も重要な大蛇行及び大冷水塊の変動過程の全容が明らかになり、その発生・消滅の予測を可能とする先駆現象を把握した。

① 大蛇行の発生過程

黒潮大蛇行は昭和12年に観測されて以来、現在に至るまで5回の発生をみている。大蛇行発生は3〜4か月前に九州南東方に小規模な蛇行が発生し、その内側に冷水塊を巻き込みながら四国沖、潮

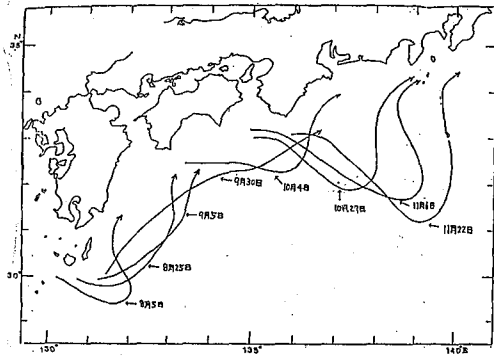


図2 昭和56年の大蛇行発生過程

今年2〜3月にかけて例年になく海水温が低下し、各地で魚の浮上現象やへい死現象がみられました。このような現象は三八豪雪で知られる昭和38年以来と言われ、新聞などでも何度か報道されたところですが、今年度の冷水現象と一般に異常な冷水現象と呼んでいますが、実際にどの程度まで水温が下がったのか、また、昭和38年と比較してどうであったか、などについては意外に正確な情報は乏しいようです。そこで水産試験場が毎朝9時に計っている水温の記録から、今年度の低水温現象をもう少し正確に見てみようと思えます。

(1) 水温経過(図1)

今年2月に入り、2月9日に5.16℃と今年の最低値を示しました。その後は横ばいとなりましたが、6℃以下の低水温は3月27日まで続きました。ちょうどこの6℃台の水温が続いた時に魚のへい死や浮上が多くみられました。平年と較べますと、この時期の水温は、2.5〜3.0℃低目の状態でした。4月に入って水温は上昇を始めましたが、平年値への回復は遅く、6月末も依然普段の年よりも

水試ノート

今年冬季の異常冷水現象(その1)

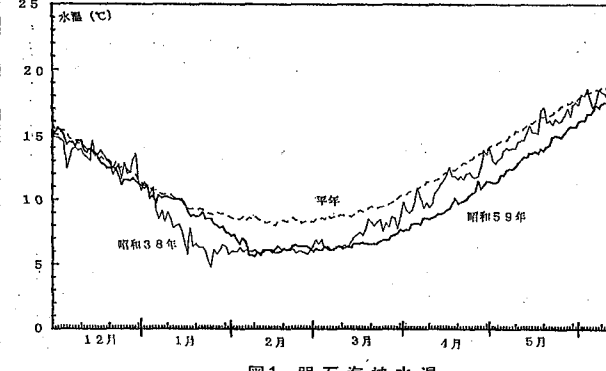


図1 明石海峡水温

明石海峡・播磨灘東部・大阪湾北西部(明石浦)

漁種	隻数	主魚種	1隻目平均漁獲量(kg)	平均価格(円)
小型底曳網	45(大阪)	イカ、タガナ、メマア、コマ	4〜5 5〜10 3〜5 50〜150	4,000〜6,000 2,500〜4,000 1,600〜1,800 6,000〜8,000 350〜600
	30(大阪)	エビ、ビビ(大)、エビ(小)	5〜15 20〜30	1,500〜2,000 400
一本釣	45(播磨)	イカ、タガナ、メマア、コマ	5〜7 3〜7 6〜7 150	4,000〜6,000 2,500〜4,000 1,600〜1,800 6,000〜8,000 350〜600
	2(海峡)	サダコ、ゴコウイ	40〜70 40〜50 3〜5	100〜2,000 350〜600 6,000
延縄	5〜6(小ダイが主)	サダコ、ゴコウイ	15〜30	4,000〜8,000
	50	ツバス	20〜40	600〜1,000
	30	マルアジ	10〜15	1,000〜1,350
	10	サワラ	10〜15	1,200
	5	スズキ	7〜10	4,000〜6,000

大蛇行期(昭和52年、昭和54年)の関東近海のマイワシ漁獲量は4万3千トン〜8万5千トンであったが、衰退・消滅期の昭和55年には12万1千トンに増大し、黒潮変動と水産資源の間には深い関わりが見られた。マイワシの資源の変動は産卵場の輸送されてくる稚仔の生残り条件の良否に起因している。大蛇行衰退、消滅期には黒潮流路が不安定となり、親潮の南下、暖水塊の形成等、関東近海の海洋環境の変動が著しく、海水混合が促進された結果、マイワシ稚仔の生残り及び成育日数は昭和38年が57日、今年が54日とあまり変わりません。

(次号に続く)

大阪湾西部

調査は8月17日に行った。表層水温は24.5〜26.3℃の範囲にあり、明石海峡部では24.5℃、友ヶ島水道付近では25.6℃を示す。平年と比較すると全般に1〜1.5℃低目である。

紀伊水道北部

調査は8月17日に行った。表層水温は24.2〜27.3℃の範囲にあり、沼島南方と紀伊友ヶ島水道周辺は好漁のうちに終了した。マダコは前月に続いて、籠網での漁獲が好調の模様。

海況

播磨灘

調査は1〜2日に行った。それによると、表層水温は33.2〜27.2℃の範囲にあり、明石海峡部は23℃台、北部海域は26℃以上となっている。灘中央部の水温は平年並であるが、海峡部および灘北部では1〜1.5℃低目となっている。

魚況

明石海峡周辺

小型底曳網ではメイカレイ、マコカレイ、アナゴ、タコ、エビ類が主体。タコは8月に入って中ダダゴ中心に獲れた。一本釣はツバス、マルアジ、サワラ、スズキなど。ツバスは例年並の漁だがやや小型である。マルアジもほほ例年並。

吾智網のマダイは小ダイが主体であるが、前年より多い。

友ヶ島水道周辺

小型底曳網ではマダイ、ハモ、アナゴ、タコ、シラサなど、刺網ではキス、赤シタ、マコガレイ、ガシラなど、コガレイ、ガシラなど、延縄ではハモ、アナゴ、ガシラなど、一本釣ではタチウオ、アジ、小ダイ、サワラ、スズキなどが漁獲されている。

延縄によるハモ漁は依然好漁である。その他、マダコも好漁となっている。

鳴門海峡・紀伊水道周辺

小型底曳網ではエビ類(アナゴ、赤シタなど)、吾智網ではハギなど、一本釣ではマルアジ、ツバス、サワラ、サバ類など、延縄ではマダイ、ササギ、シラサ、アヒナ、カサゴなどが漁獲されている。

延縄によるハモ漁は好漁のうちに終了した。マダコは前月に続いて、籠網での漁獲が好調の模様。

8月海況と漁況

兵庫県立水産試験場

水産業普及たより

アワビの多段式中間育成

洲本市由良地区清水漁業協会は、これまで多年にわたり、アワビの種苗生産並びに中間育成を実施してきています。種苗生産の方は成功するまでには至っていませんが、中間育成の方は、かなりの成績を上げています。今年の中間育成には、ダイワエンジニアリング社製のネオランバーを素材にした多段式水槽システムを導入しました。

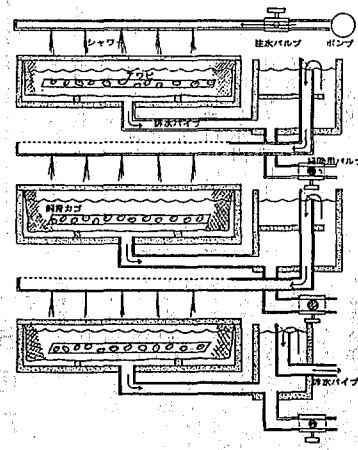
この素材は比重が1.0と軽重な上、吸水率が小さく耐蝕性が非常に良く、又、二次加工が容易でFRPとの密着性が良い等すぐれた特徴を持っています。

多段式水槽システムとは、60センチ×90センチ×20センチの水槽を横に5列、縦に3段を組み合わせたもので、これがワンセットとなり、次の様な特徴を持っています。

(1)上段で使用した水を中段に回し、これを又、下段で使用することも水の有効利用が図れます。

(2)注水はシャワー方式であるので、エアレーションの必要がない。

(3)素材の耐蝕性が良い



ため半永久的に使用できる。

(4)水槽の底面の一边に配置したパイプからの放水により、底面に溜った残餌等を簡単に除去できる。

(別図参照)

同協会では4月に但馬水産事務所所から配布を受けたアワビの稚貝をこの施設に収容し、アオカシを餌料として5月、6月と順調に

飼育を続けていました。しかし、7月に入り突然注水が止まったために、アワビ稚貝の一部が死亡という事故が起りました。それは、注水の設備がイガイ対策として計画されており、大きな成果が期待されています。

(洲本農林水産事務所 淡路普及班)



大塩漁協の観光地曳網

このたびは漁業が行われた。午前九時頃より掛け声に合せて網が曳かれ、イワシなど約二十種の魚が獲れた。銀鱈が夏の海に輝いた。組合では今後土・日曜日を中心に実施していきたいとのことである。

22日好天。恵まれた夏空のもと、大塩町地先において地元小学生約二百名を招待し地曳網

これら観光漁業は皆誕生きた魚に接する機会のない人々に漁業というものを広く普及する絶好の場であるとともに沿岸漁業振興に寄与するもので大いに期待されるものである。

生活改善通信 のり養殖加工時期の健康管理

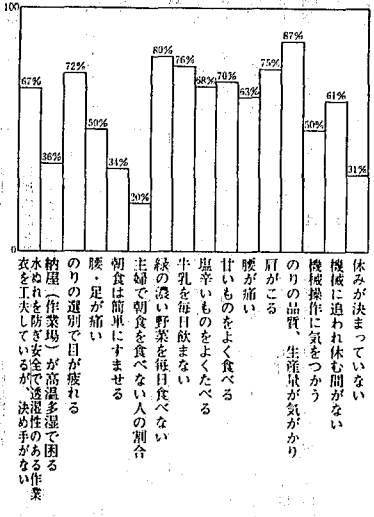
1. 生活・生産上の問題点



明石市内のほとんどの漁家は十一月中旬から四月末までの五ヶ月間は、のりの養殖加工が主な仕事となりま。作業は機械化されて「体」は「楽」になつてきているようですが、機械を動かしている

石市内九十戸(男女一八〇人)を対象に調査した結果(漁家生活改善課題調査)の一部です。この実態調査の問題点としては、グラフ①に示すとおりです。一方、これらの原因

2. 問題点を生じる原因と考えられるもの



てみますと、グラフ②に示すとおりで、今後の対策としては

(1) 働きやすい作業衣の工夫

(2) 納屋の環境改善

(3) 主婦は食事づくり

(4) 健康診断は必ず受ける

(5) 営漁簿を記載し、経営の無駄とむらもなくし経営のバランスをとる。

活セミナーを開催し、作業衣の試着研究、納屋の環境改善の啓もう、バランスのとれた食事づくりの実習、営漁簿の記載推進など具体的な課題解決に取り組んでいます。(明石農業改良普及所)

漁種	隻数	主魚種	漁獲量(kg)	価格(円)
木釣	17	ワサ	5	1,350
		ラバ	2	130
	7	サバ	50	130
		バス	4	640
	7	マアジ	7	2,000
延縄	32	ツバス	16	640
	2	ウマツラ	35	300
刺網	2	マコブ	20	3,500~5,300
		イイカ	10	2,300
		イサバ	10	350
たこつば	2	アサギ	20	800
		メゴロ	15	300
籠縄	3	クロダシ	2~3	1,400
		イサバ	2~3	800
	3	マダコ	85	1,200
採貝	6	マアサギ	45	1,030~1,540
		コゴス	3	1,500
		ダナサ	2	300
	カサリ	100	200~300	

紀伊水道北部(沼島)				
小型底曳網	50	カワズ(サルエビ)	2~3	1,800(活)
		エエア	5~10	750(死)
一本釣	2~3	マゴマ	1~2	900
		アサギ	30~60	450
刺網	25	赤シ	30~50	1,500
		クイ	10	300
小型底曳網	14	ヨサ	1~2	5,000
		シエ	3	1,800
一本釣	4	タカチ	10	1,000
		ダサ	15	300
延縄	5	イサバ	7	1,000~2,000
		シノ	4	800
一本釣	2	イサバ	2	3,500
		ダサ	5	2,330
延縄	12	イサバ	5	1,840
		ダサ	50	850
一本釣	1	イサバ	4	1,300
		ダサ	6	500

友ヶ島水道(由良町)					
小型底曳網	7	タ	イ	24	3,300
		ハアタシ	モゴコサ	2	4,200
一本釣	68	ナ	ラ	13	1,300
		シ	サ	10	1,040
延縄	20	タ	ウ	3	1,800
		オ	オ	8	500
一本釣	10	ア	ジ	6	1,700
		サ	イ	6	2,500
延縄	30	小	ラ	15	1,800
		ワ	キ	3	4,500
一本釣	20	ス	ズ	3	4,000
		ハ	モ	20	4,000
延縄	5	ア	ナ	2	1,200
		ゴ	ゴ	2	1,200
一本釣	2	ア	ナ	2	1,200
		ゴ	ゴ	2	1,200
延縄	5	ガ	シ	15	2,200
		ラ	ラ	15	2,200
一本釣	3	キ	ス	8	1,700
		ス	ス	8	1,700
延縄	5	赤	シ	15	1,500
		タ	タ	15	1,500
一本釣	12	天	ガ	4	3,200
		ソ	シ	7	2,000
延縄	1	タ	コ	10	700
		コ	コ	40	1,260

